

ARCHITREND 省エネナビ Ver.2の新機能

計算プログラムの仕様変更に対応

国立研究開発法人 建築研究所「エネルギー消費性能計算プログラム（住宅版）」の Ver.2.4.2 に対応しました。

給湯設備

「空気集熱式太陽熱利用設備」の計算に対応しました。

これに伴い、従来の「太陽熱利用給湯設備」を「液体集熱式太陽熱利用給湯設備」に変更しました。



一次エネルギー消費量結果

「Excel 出力」で、次の内容に対応しました。



- ・「1. 住宅/住宅（タイプ）の設計一次エネルギー消費量等」の右図注釈を追加しました。

24	(7)BEI	一次エネルギー消費量(その他除く)[GJ/(戸・年)]	22.3	56.4
25	25	BEI	0.40	
26	本計算結果は、当該住宅が建設される地域区分及び設計内容に、一定の生活スケジュールに基づく設備機器の運転条件等を想定し計算されたもので、実際の運用に伴うエネルギー消費量とは異なります。			
27	(4)の各用途内訳を足した値と合計は四捨五入の関係で一致しないことがあります。(6)の値は小数点以下一位未満の端数を切り上げているため、(4)の合計と一致しないことがあります。			
28				
29				
30				
31	2. 当該特定住宅(住宅タイプ)の仕様			
32	(1) 暖房仕様			

- ・「2. 当該特定住宅（住宅タイプ）の仕様」に「(6) 空気集熱式太陽熱利用設備仕様」を追加しました。

111	(6) 空気集熱式太陽熱利用設備仕様			
112	設備項目	設備の仕様		
113	K,空気集熱式太陽熱利用設備	設備仕様	空気送送ファンの自立運転用太陽光発電装置を採用しない 空気送送ファンの種別：DCファン 循環ポンプの自立運転用太陽光発電装置を採用しない 給湯部のタンク容量：10L 空気送送ファンの送風機特性曲線において機外静圧をゼロとした時の空気送送ファンの風量：1.0m³/h	
114		集熱器群の数・方位	集熱器群の数：1面 集熱器群の方位角：真南から東および西へ15度未満	
115		集熱器群 1	面積：10.0㎡ 傾斜角：30度 切片：0.1 傾き：2.0W/(㎡・K) 質量流量：0.0107kg/(s・㎡)	
116		集熱器群 2	*****	
117		集熱器群 3	*****	
118		集熱器群 4	*****	
119				
120				
121				
122				
123				
124				
125				
126				
127				
128				
129				

- ・ 4 ページ目に「設計二次エネルギー消費量等（参考値）」を追加しました。

166	設計二次エネルギー消費量等（参考値）			
167	設計二次エネルギー消費量			未処理暖房負荷の設計一次エネルギー消費量相当値[MJ] * 2
168	消費電力量[kWh] * 1	ガス消費量[MJ]	灯油消費量[MJ]	
169	1,115	33,743	0	17
170	*1：当該住戸で消費する電力量から、太陽光発電設備による消費電力削減量（太陽光発電設備による発電量のうち、当該住戸で消費される自家消費分）とコージェネレーション設備による発電量を差し引いた値を表記しています。			
171	*2：未処理暖房負荷とは、当該住戸に設置された暖房設備機器で処理できなかった負荷を指し、負荷を処理した暖房設備機器とは別の、何らかの暖房設備で処理したと仮定して、設計一次エネルギー消費量相当値に換算しています。			
172				
173				
174				
175				
176				

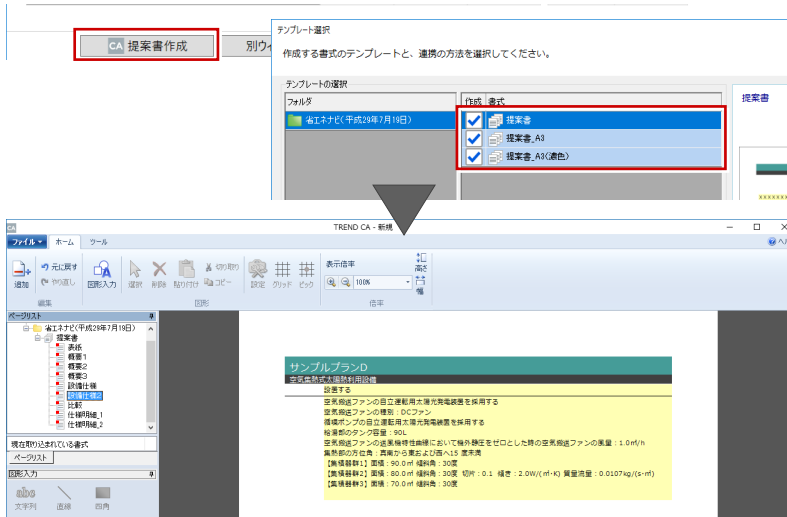
比較検討

空気集熱式太陽熱利用設備の仕様を「比較検討」の「コスト明細」に連携するようにしました。



また、省エネ提案書のテンプレートを追加・更新し、空気集熱式太陽熱利用設備の仕様を TREND CA の省エネ提案書に連携するようにしました。

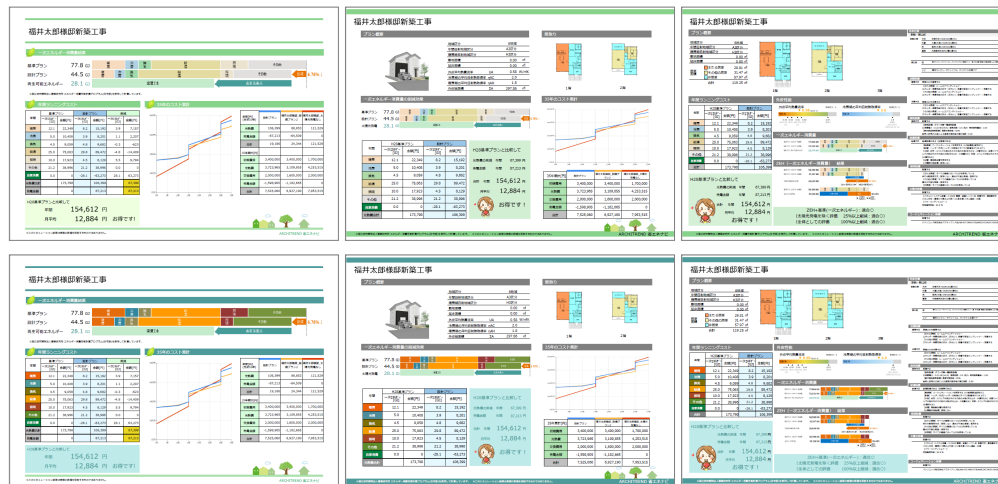
※ TREND CA のテンプレート「省エネナビ (平成 29 年 7 月 19 日)」を更新してください。



・ 提案書_rzc
ページリストに「設備仕様 2」を追加し、空気集熱式太陽熱利用設備の仕様を表示しました。

・ 提案書_A3.rzc
1 ページから 3 ページに変更し、プラン概要、間取り、一次エネルギー消費量の削減効果、外皮仕様や設備仕様の詳細なども表示するようにしました。

・ 提案書_A3 (濃色).rzc
A3 タイプの色違いのテンプレートを追加しました。



年間日射地域区分などの再設定

物件情報

従来は「年間日射地域区分」「暖房期日射地域区分」の設定を変更するには ZERO に戻る必要がありましたが、省エネナビで変更できるようにしました。連携後の変更の手間が軽減されます。

